

温州みかん「石地」主幹形仕立て栽培勉強会開催

【平成30年7月4日掲載】

平成30年6月7日に呉市下蒲刈島町で、広島県原産の温州みかん「石地」の主幹形仕立て栽培に取り組む、同町と蒲刈島町の新規就農者3名を対象に、勉強会を開催しました。

温州みかんの主幹形仕立て栽培は、県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部で開発された技術で、1年間で樹高180cmの1本の主幹を育成し、主幹から長さ約60cmの側枝を25本程度発生させて、樹冠を円筒形に仕立てた樹形です。樹幅が1.2mと非常にコンパクトなことから、島しょ部の狭いほ場でも密植により早期成園化が可能です。また、きちんと通路を取ることができ、省力化につながります。

浮皮発生が少なく食味もよい「石地」で、主幹形仕立て栽培を採り入れることにより、産地の拡大が期待できます。

勉強会では、当所の担当者が、定植1年目と2年目の樹を用いて側枝の管理を中心に解説しました。ポイントとして、主幹上部がやや広めで逆三角形ぎみの円柱型となるよう側枝を配置して、主幹基部から発生している太い側枝は元から早めに間引くこと、主幹を丈夫な紐で支柱に結束しておくことなどの注意点を説明しました。

栽培経験の浅い新規就農者は、熱心に説明を聞き、活発に質問や意見を交わしていました。今後も、生育ステージに合わせ、主幹形仕立て栽培の勉強会を開催する予定です。



熱心に説明を聞く新規就農者



「石地」主幹形仕立て
(定植3年目)

情報提供元

西部農業技術指導所